

# 日本語学習アドバイザー研修リソースの開発に向けて

黒田史彦

Email: fukuro@tmu.ac.jp

東京都立大学国際センター

◎Key Words 日本語学習アドバイザー研修リソース, パターン・ランゲージ

## 1. はじめに

非母語として日本語を学ぶ学習者に対する支援のひとつに、「日本語学習アドバイザー」が挙げられる。<sup>(1)(2)</sup> 日本語学習アドバイザーとは、自律的な日本語学習の実現を促すための対話的な支援である。日本語学習アドバイザーの実践者であるアドバイザーと学習者との個別的な対話を通じて、学習者が自らの学習について主体的に考え、決め、実行できるようになることを目指す。アドバイザーは、学習者自身による学びの設計、実行、検証ができるように、質問を中心に据えた対話を繰り返す。

熟練したアドバイザーは、一人ひとり異なる学習者の背景や特性を受け入れ、即興的な対話を展開する支援上のコツ、すなわち実践知を経験的に獲得し、半ば無意識に駆使している。この実践知の多くは、暗黙知的な性質を帯びるものであり、形式知化は容易ではない。しかし、熟練アドバイザーの持つ実践知を言語化、可視化し、広く共有、継承できれば、学習者により良い支援が提供可能となる。特に、新規にアドバイザーを育成する新人研修において、熟練アドバイザーが備える実践知を知り、身につける機会を提供できるに越したことはない。

本発表は、熟練アドバイザーの有する実践知の言語化、可視化を試みた「パターン・ランゲージ」の概観であると共に、新人アドバイザーの育成研修用リソースの開発に関する報告である。さらに、研修リソースの効果検証に関する計画についても簡単に触れる。

## 2. 日本語学習アドバイザー研修リソース

### 2.1 パターン・ランゲージ

パターン・ランゲージは、優れた実践や成功事例を支える実践者の「匠の技」ともいえる実践知や経験則を「パターン」として抽出し、体系づけたものである。<sup>(3)</sup> 日本語学習支援ないし日本語学習者支援の分野においては、アカデミック・ライティング支援のためのパターン・ランゲージ<sup>(4)</sup>や職場において外国人材との協働コミュニティを作り出すためのパターン・ランゲージ<sup>(5)</sup>が開発されている。

パターン・ランゲージは、実践の場面や局面に応じたいくつかのカテゴリから構成され、各カテゴリは3つのパターンを内包することが多い。各パターンは、それぞれのパターン名の下、何かを実践する過程で生じやすい状況、その状況において陥りやすい問題、そして、その問題を解決に導くヒントとなる行動、から成る。

パターン・ランゲージの理念や構成を援用しつつ、日本語学習アドバイザーの実践を成功裏に導く実践知や経験則を整理して体系化しようと試みたものが、「日本語学習アドバイザー研修リソース」である。

### 2.2 日本語学習アドバイザー研修リソース

日本語学習アドバイザー研修リソースは、アドバイザーの実践知を体系化したものであり、表1のように、「1. 学習者への接し方」以下、7つのカテゴリにより構成されている。各カテゴリには3つのパターンが収められており、合計21のパターンがある。アドバイザー研修リソースを実施するセッション内における心得だけではなく、常日頃から心掛けておくべきことまで、パターンの種類は多岐にわたっている。<sup>(6)</sup>

表1 日本語学習アドバイザー研修リソース

カテゴリ	パターン
1. 学習者への接し方	①一人ひとりの学習者 ②信じて任せる ③かぶける場
2. 学習者との対話	④よき聞き手として ⑤考えるきっかけづくり ⑥セッションの舵取り
3. セッションの展開	⑦今日の見通し ⑧ひと時のチーム ⑨まとめの時間
4. 学習目標の設定	⑩スタート地点の確認 ⑪未来の自分を描き出す ⑫達成感の積み重ね
5. 学習計画の立案	⑬合目的のプランニング ⑭最初の一歩 ⑮セルフチェック
6. 学習方法・学習リソースの活用	⑯今までの学習法 ⑰どんぴしゃの選択肢 ⑱魚の釣り方
7. アドバイザーとしての成長	⑲引き出しを増やす ⑳支援者だってふり返り ㉑学習者としての体験

アドバイザーがこれらのパターンを知っておくことにより、自らの実践を振り返るための観点として、他のアドバイザーと話し合うための共通言語として、そして、実践方法の改善を試みる際の発想の種として、利用できる。

また、各パターンは、象徴的なイラストを添えたうえでパターン・カードを作成しておくことで、活用が容易になる。例えば、「2. セッションの展開」カテゴリにおけるパターン⑥「セッションの舵取り」のカードは、アドバイザーと学習者との話し合いが盛り上がり、話題があちこちに飛んでしまうという状況を取り上げている。当該セッションにおける本来の目的が見失われ、時間切れになるという問題が起こりかちである。この問題を解決するため

のヒントとして、アドバイザーは、どんなに話が反れても目標を見失わず、タイミングを見計らって話を軌道修正するよう常に心得ておくことが期待される。

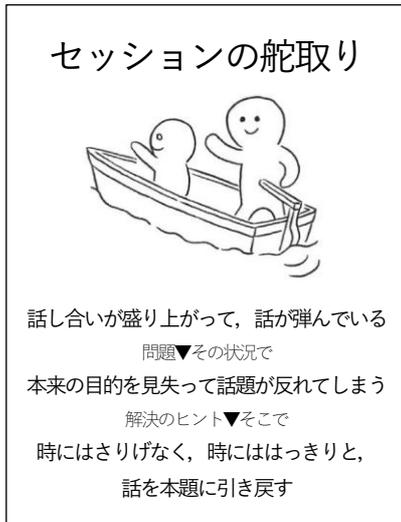


図1 パターン・カード：セッションの舵取り

### 3. アドバイザー研修リソース

新人アドバイザー向けの研修リソースとしてパターン・ランゲージを有効に活用する方法としては、上述のパターン・カードも有用ではあるが、模擬実践の様子を収録した動画との組み合わせも役に立つ。

本取組では、熟練アドバイザーによる模擬セッションの様子を録画しておき、その動画の然るべきシーンにパターン名を字幕として挿入した。さらに、TechSmith社の動画編集ソフトウェアであるCamtasia 2024を利用して、パターン名による検索機能を実装し、該当シーンにジャンプして視聴できるようになった。



図2 研修リソース動画のスクリーンショット

これらの機能を利用することにより、熟練アドバイザーはどのような対話場面でパターンを用いているのか、いかなる文脈でパターンを発動させているのか、どのような発話としてパターンが具現化されているのか、等について具体的に知ることができる。

本研修リソース用動画の利点として、熟練アドバイザーによるパターンの実践が、言葉以外の形で為されている事例も確認できる。熟練アドバイザーの身振り手振りはもちろん、姿勢や視線の動きによる学習者への働きかけなどについても、実際の様子を見て理解することができる。さらに、敢えて沈黙の時間を設けたり視線を逸らし

たりする(②信じて任せる)ことによって、学習者に深い思考を促している様子なども見て取れる。

熟練アドバイザーによる「匠の技」を動画と共に知る機会を得ることにより、新人アドバイザーはパターン理解の解像度が上がり、より解釈が深まる。新人ではなくとも、むしろアドバイジングの経験を積んだアドバイザーであるほど、自らの実践経験と比較、対照すれば、より多くのことに気づけ、実践力向上につなげられる。本研修用動画リソースは、新人と経験者とを問わず、アドバイジング実践の拠り所となり得る。

### 4. おわりに

日本語学習アドバイジング・パターンも含め、研修用の動画リソースは、今後も引き続き更新と拡充が不可欠である。同時に、研修用リソースを活用したアドバイザー研修の効果検証も、今後の課題となっている。

現時点での計画としては、人材開発研究やワークショップ・デザインにおける知見<sup>7)</sup>を援用し、継続的な調査を実施する予定である。「新人アドバイザーが研修リソースを繰り返し利用し、研修転移を積み重ねることにより、熟達化が効果的、効率的に進んでいく」という仮説の下、熟達化のプロセスを明らかにする。その際には、主に「サクセスケース・メソッド」<sup>8)</sup>に基づき、アドバイザー自身による語りによって説得力を伴った形<sup>9)</sup>で熟達化プロセスを詳らかにしていく計画である。

### 参考文献

- (1) 青木直子：“外国語学習アドバイジング：プロのアドバイスであなただけの学習プランをデザインする”，Amazon Kindle eBook (2013).
- (2) 加藤聡子，ジョー・マイナード（義永美央子，加藤聡子（監訳））：“リフレクティブ・ダイアログ：学習者オートノミーを育む言語学習アドバイジング”，大阪大学出版会 (2022).
- (3) 井庭崇（編著）：“クリエイティブ・ラーニング：創造社会の学びと教育”，慶應義塾大学出版会 (2019).
- (4) 大森優，黒田史彦：“日本語アカデミック・ライティング支援における実践知の抽出過程：「発想のスイッチ」を例として”，筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター 日本語教育論集，37号，pp.93-102 (2022).
- (5) 黒田史彦，伊作太一，木下直子，田中久実，伴野崇生，鍋島有希：“外国人材との協働コミュニティをつくるためのパターン・ランゲージの全体像とその作成過程”，筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター 日本語教育論集，38号，pp.21-40 (2023).
- (6) 木下直子，黒田史彦，トンプソン美恵子：“日本語学習アドバイジング：自律性を育むための学習支援”，ひつじ書房 (2024).
- (7) 中原淳，関根雅泰，島村公俊，林博之：“研修開発入門「研修評価」の教科書：「数字」と「物語」で経営・現場を変える”，ダイヤモンド社 (2022).
- (8) ブリンカーホフ，ロバート・O.（佐々木亮（訳））：“サクセスケース・メソッド：何がうまくいっていて、何がうまくいっていないのかを素早く把握する”，多賀出版 (2022).
- (9) 黒田史彦：“外国人材と共生できる職場づくりワークショップ：パターン・ランゲージを活用した取り組み”，ビジネス日本語研究会 第36回研究会 予稿 (2022).  
[https://84253952f82b9c64.lolipop.jp/archive/BJ36/BJ36\\_kuroda.pdf](https://84253952f82b9c64.lolipop.jp/archive/BJ36/BJ36_kuroda.pdf) (2024年6月30日閲覧)